

讃岐香川の様々な文化発展を応援します。

# 文化通

2002

夏

6月1日発行(季刊)



## 最後は「ガラスの茶室」です！

ガラスの萌黄色の輝きに、自然の移ろいゆく光を見出した辻 正昭さんは、数々の個展やインсталレーション、そして、公開制作など斬新な創作活動を続ける造形作家。

「ガラスは水」を体感しながら、感性で創り上げるその作品は、深く繊細、ときには豪快。

「ガラスの茶室」実現へのプロセスは着実に進んでいる。

特集 あ・うんの数寄講座 第Ⅲ期・第八回[日本人の美意識—わび・さび・数寄とは—]久田宗也・熊倉功夫  
見聞録 「レールサクレ」さわやかな五月の風と光の中で  
好評連載 美藻庵点描／Oh!茶Gai!  
六月から八月までの茶華道・イベント情報を掲載

## 「あ・うんの数寄講座」

日本文化のエッセンスを探る連続セミナー  
於 香川県県民ホール内 アクトホール

第三期・第八回

### 【日本人の美意識——わび・さび・数寄とは——】

講師

久田宗也（表千家流久田家当主 第二代）

熊倉功夫（国立民族学博物館教授 文学博士）

齋藤

日本文化のエッセンスを探るということで、茶の湯を中心に、さまざまな角度からこの連続講座を行なつてまいりましたが、今回は最終回ということで、講座全体を締めくるテーマとして、「わび・さび・数寄とは」ということについて、お話をうかがいたいと思います。

宗旦についてのお話の中で、「わびて」とか「わび宗旦」など、「わび」という言葉がたくさん出てきました。お茶をなさつている方にとっては、つねに頭のかたわらにある言葉だと思うんです。けれども、「わび」とは一体どういうことだろうと正面きつて考えはじめると、こんなに難しいことはないですね。

久田 私どもの表千家流をはじめ、今日庵さん、官休庵さん、千家流のお茶は「わび茶である」と、昔からいってまいりました。その基本は、利休から宗旦の頃に仕上がつてしまつたものではないかと思つております。いつも聞かされておりましたのは、お茶の気持ちというものは、もともとは和歌の道から入ってきたということですね。それから、ことに能の世阿弥に影響を受け、また、世阿弥の娘婿である金春禅竹、その孫の金春禅鳳とい

うよくな、芸人さんといいながら凄い天才がおられた。あるいは、絵師の雪舟や連歌師の飯尾宗祇といった人たちが輩出しますが、そういう人たちがお茶の気持ちをつくってくれた。そういう流れのなかから、お茶の元祖である村田珠光という人が、やはり歌を詠み、お茶のやり方を考えました。そのあたりが、茶の湯における「わび」の入り口といえるのでございましょう。

ですので、応仁の乱を契機に、一四〇〇年代の後半あたりから時代が大きく変わつてきて、そのなかで「わびの心」というものが鍛えられたのではないかと考えております。私は、村田珠光、そして、利休の師である武野紹鷗が、「わび」という気持ちをつくりあげたと思っております。利休はああいう暴れん坊の専制君主に仕えて、もう戦争に明け暮れてしましましたから、それでもつて道を完成させることはできたのですが、ある意味では「わび」どころでないような世界があります。紹鷗という人のなかにこそ、やはり歌の静かな気持ちが根本にあって、そこに「わび」があるという、そのような気持ちであります。

また、利休の頃、いよいよ戦国の時代

に入りましたが、明日の命も知れぬ、激しい世のなか、そういう状況のなかでお茶をやる。一期一会というような言葉が生まれてくる時代ですね。そのような過酷な時代を超えたお茶人の物思いというのは、豊かなこの時代とはずいぶんと違う雰囲気のなかで生まれてきたものでしょう。

熊倉 私は、「わび」とか「すき」について、あまり語ることはできないのです。が、「数寄」と、「わび」「さび」というのは違うのではないかという気がするんですね。「わび」が好きな人にとっては、「わび」はいいものですが、いやな人にとつては「なんでわびる必要があるんだ」ということになるわけでしょう。そういう

うひとりひとりの心のなかにもついている価値観と、「わび」や「さび」というのは大いに関わってくると思うんですね。一方で、「数寄」というのは好き嫌いでも好きで好きでたまらない、寝ても覚めても頭を離れないぐらい好きだというごとに、「スキー」なんです。ですから、本来、平安時代の「スキー」というのは恋であり、これは恋をした状態というのがまさに「スキー」なんです。ですから、本来、ういうあからさまな「スキー」の世界へ一つ超えると、風流を好むという世界へ行く。これが「数」を「寄せる」と書く方の「数寄」の意味になつていきます。「数寄」の心が非常に大事だということをいつたのは、宗匠も名前を挙げておられました世阿弥です。『花鏡』という本を世阿弥は書きましたが、そのなかに、いつも感心させられる言葉があります。「そもそもその物になること、三つそろわねば叶はず」「習道を知る事」——その道で「あの人がある」と誰もが認めるぐらいいの者になるには、三つの条件が必要で、それらがそろつたときに初めてものになります。その三つは何かと云うと、一つ目は、「下地のかなづべき器量」。厳しいですね、やはり世阿弥という人はいい加減なことはいわない。器量がなければ駄目だ、と。つまり能力であり、才能です。どんなことでも、力というものがなければ駄目だというんですね。これでだいぶ落ちます。二つ目は何か。「心にすきありて、この道に一行三昧になるべき心」。これが、「数寄」の心です。とにかく好きで好きでたまらない。いくら力があつても能力があつても、それだけでは駄目なんです



ね。それが大好きで、寝ても覚めてもそのことが心を離れないというような気持ち、数寄の心があるときに、条件は二つ目が整うわけです。

三つ目は、「この道を教ふべき師」。先生がいなければ、やはり一人では駄目なんですね。

ですから、「器量・数寄の心・師匠」、

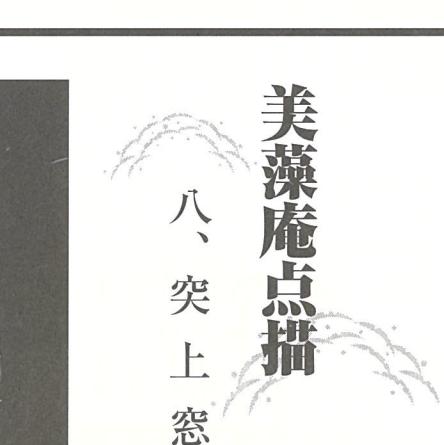
この三つの条件がそろって「この道にこの人あり」という者になると世阿弥はいっているわけです。私は、このことを日本人はいろいろないかたをしてきたと思います。条件が整わないで数寄の心だけだと、「下手の物好き」ということになります。

江戸中期の国学者・本居宣長は、その著書『うひ山ぶみ』のなかで、学問の道というのは、倦まず怠らずに励み続けることが肝要であると説いています。これが「数寄」の心ということだと思うのですが、つまり、倦まずたゆまず続けることができる。必ず到達できるといふことができれば、必ず到達できるといふことですね。この「数寄」の心といふものが、すべての根本ではないかと思います。そういう気持ちが、茶の湯も含めて日本文化の根底にいつも流れている。その上に、一つの方向として、「わび」とか「さび」という別の価値観がのつてく

るのではないかと思うんです。

**久田** 先々代の家元（惺齋）の好み物を見ましても、特徴があるのは、棗などですと、一見外側は無地の何でもない、ごく渋い単純な物で、なかを開けると模様が見えてくる。模様といいましてもあまり派手ではなく、黒い漆で描くとか、あるいは地味な色合いで描いてある。そう

いう物が多く好まれています。そのようなどころに、いわゆる「わび」とか「さび」という心持ちが込められており、また、そういう現れ方というのが、千家流における「わび」の手法の一つかと思われるところがございます。「渋い」というとそれまでなのですが、こういうことは言葉では語れない。言葉はあるけれども、中身は説明できない。そういう部分があるんですね。やはり、これは面白い文化の特色であって、物のかたちであれば何か見えてくる、でも、言葉では表現しきれないことがありますね。知らないうちに茶室のなかで、先人の残してくれたものに接するなかで、そういう雰囲気のなかに浸つてしまふと、おのずから体得できるものとしてあるように思います。暗い茶室のなかに、地味で渋い道具を置いて、ほとんど真っ暗の状態ですね。そのなかに主人と客が心を通わすといふんですが、それは道具と主人、道具と客、それぞれが心を働かせているから、主人と客の心が通ずるわけでございます。そういう主体的な人間の方から道具への働きかけというものが、そのなかに考えられているわけですね。



## 美藻庵点描

### 八、突上窓

**熊倉** 墨絵に描いた松風の音というのは、実際には聞こえるはずはないわけですが、墨絵に描かれた松のなかに松風の音が聞きましたか。

**久田** そうです。

茶室の窓については、下地窓で多少述べたが、窓の目的は言うまでもなく、採光を第一に通風換気を良くし、また室内から外部の露地や遠景を眺望するのであるが、茶席では主として採光と換気を目的とし、客が着座した時は庭園を見ることは希である。

それは露地入りの際、中立ちの際に十分庭園を鑑賞するからであろう。突上窓は茶席の掛込天井に設けられる天窓で、採光通風の役目を持ち、暁の茶事では前席で灯火を用い、後席では灯火を消して突上窓を開き、暁の光を入れる趣向となつている。

その型式は、中央に垂木を挟み、窓の幅は垂木間一こま分を明けて屋根地に木枠をつくりその中に油障子と突上戸を取付け、油障子は上部へすり上げ、戸は突上竿で突上げる。この竿を鴨のはしともいう。現在では油障子の代わりにガラス戸を用いることもある。

こえてくる、それが茶の湯だという。つまり、表現されない部分のなかに表現されているもの、表現のその背後にいるものを見る、あるいは、それを感じる、そこにたぶん如心斎の「わび」があつたんだと思うんですね。そういういろいろな「わび」のかたちを、われわれは歴史を顧みることで、いま自分のなかの「わび」といぢばん近いものを取り出すことができるのではないか——そんなふうに思うんです。

千家のお茶に感じるいちばんの魅力なんですね。たしか如心斎の歌だったと思うんですけど、茶の湯とは何かと問われたとき、「墨絵に描ける松風の音」でございましたか。

## 見聞録



# 「レールサクレ」さわやかな五月の風と光の中で

氣の早い桜の開花に寒い花見を余儀なくされたころ、玉藻公園北側広場でバグパイプの練習をしている人を見かけました。フェリー乗り場から道路を隔てて整備された一角は、かつて「讃州讃岐の高松様は、城が見えます波の上」とうたわれた全国に名高い水城・玉藻城の水手御門の外側あたり。スコットランドの民族楽器の「音」に誘われたことが、レールサクレ!!神聖な空気の漂う「場所」を訪れるきっかけになりました。

### ♪バグパイプがら

その人は普通のスツツ姿でしたが、バグパイプの音色を聞きながらベレー帽をかぶりターダンチエックのスカートにハイソックス姿で行進しながら演奏する例のスタイルを連想して、「お見かけしませんが、こちらの方ですか」と声をかけました。

すると、木田郡三木町水上の小松ガーデンデザインのオープニングイベントのアトラクション演奏に招かれてきたということが話の糸口になり、すてきな英國庭園の話を明治時代に締結された日英同盟の百周年を記念して、英國大使館が今年、日本各地の百七十ヶ所で展開する植樹活動「日英グリーン同盟」を立ち上げ、四国第一号地レールサクレに領事を派遣して、オーブンのティーカットやイ

ングリッシュ・オークの植樹をしたとか。個人のプライベートガーデンながら一般公開もしていることなどを聞いて、一度訪ねてみようということになりました。

### ♪レールサクしまで

そこは高松から案外近く、新道（高速松自動車道や大川バイパス、大規模農道など）にうまくアクセスすると三十分ほどで着きましょうか。隣接するグランドカントリークラブの山すその道路沿いにある入口から、ゆるやかな傾斜で五千坪の敷地が吉田川の岸辺まで広がります。背景の山並みから川の流れに沿った眼前まで幾種類もの緑が重なり、そこは五月のさわやかな風と光に満ちていました。

### ♪さわやかな風と光の中

家の外観はフランスのシャレた田舎家を思わせるのですが、一步、足を踏み入れると英國小説の一場面のような景観が連続します。ライオンの吐水口から流れ出る水を受けるレンガ造りの池、木陰に隠れるような庭番小屋、宿泊用のログハウスやガーデニング用品を売るショップ。そして芝生の庭には大きな白いテント傘を広げたレストランスペース。それぞれをつないだ小径には色々とりどりの草花が咲き乱れ、ハーブなどが

さりげなく配置されています。どれもロマンチックな想像をかき立てさせてみようということになりました。

チングルデン。「実用の野菜畑です」とのことでしたから、小松家の食卓を賑わす野菜の栽培所なのでしょうが、取り残した大根は満開の花をつけ、種のはじけた葱坊主がシャンデリアみたいです。あちこちに野うさぎがはね、振り向いた枝先に小リスがかわいい目を輝かせているような気さえしました。

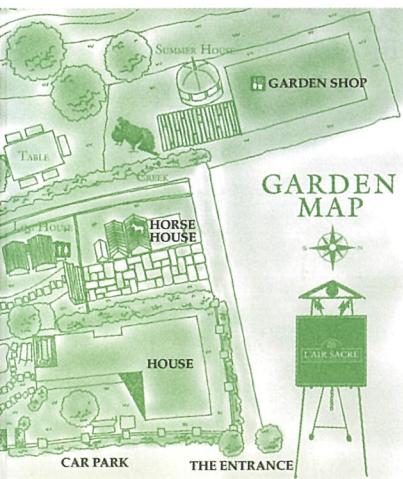
大ぶりなキャベツおばさんに「これぐらいい大きかつたらロールキャベツも巻きやすいでしょうね」と声をかけ、赤く色づきはじめた苺さんに「もう少しかしら」とご機嫌を尋ね、長い首を揺らせる白いニラの花に「あなたは匂うから」と知らん振りしてやつたりと、まるで少女のようにはしゃぎたくなります。

◆財団賞〆切  
六月末日が財団賞の〆切となっています。ご推薦下さる方があれば期日迄によろしくお頼み申し上げます。

◆数寄屋と伝統文化  
財団企画委員会  
雅樂つてなんだ!

「天・地・空」千年の悠雅」とも言われる雅樂の世界。日本の古典音楽ながら一般に鑑賞することが許されたのは明治天皇以降の事だそうです。一人前の演奏者になるには最低でも二十年。そこからやっと立ち塞がる山が見え始めるという奥深い未知の世界です。当日は楽しい解説と共に鑑賞して頂けます。立札席で芦澤先生がお茶席を担当して下さいます共にゆっくりとお楽しみ下さいませ。

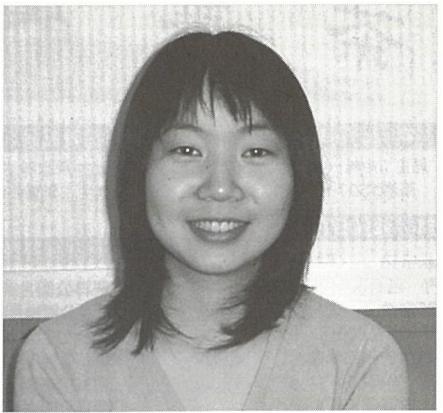
◆六月月釜「かきつばたとお茶」  
記  
とき 平成十四年六月二日(日)  
処 当財団茶室 美藻庵・晴松亭  
席主 表千家流 山地美津江社中  
席 お花席 点心席 薄茶席



記	平成十四年七月十三日(土)
第一席	十三時～十五時三十分
第二席	十五時三十分～十八時
処	当財団茶室 晴松亭
茶席	香川県神社庁雅楽部
演奏	裏千家 芦澤宗淳先生
定員	各席四十名
席料	千五百円

# Oh! 茶Gail!

その⑫



「お母さんと一緒に茶会のお手伝いをした時、新しい親子関係が生まれたかも?」。お母さんに勧められて始めたというお茶で、貴重な経験をしたという山本みどりさん。「何もかも新鮮ですよね。始める前は無駄な動作では?と思つていてることも、全て理由があるんですよね。」好奇心旺盛で、「何でもやつてみる」という彼女は今年就職した職場でも、何もかも新鮮で、興味津々だそうです。

学生時代は児童文化研究会で子供会のお手伝いやキャンプ、クリスマス会の進行など、積極的に参加してきたみどりさん。旅行も大好きで、海外にも何度も行つたり、長野県で一ヶ月バイトしたり、見かけによらず活動的。「とにかくじつとしてるのが嫌いなんです」という彼女も最近は仕事があるので、近場の食べ歩きぐらいしか出来ないとか。「また、どこかに行きたい病が出てきそう」だそうです。

## 喫茶居(十二)

### 「香川用水水口祭」

梅雨で降雨量の増えそうな頃を「水無月」と呼ぶのはなんとも不思議な感覚ですが、この時期、どことも田植えが始まっています。みずみずしい日本の田園風景が美しく広がります。

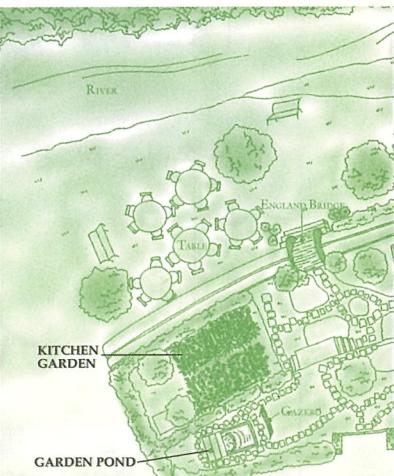


農業の機械化が進み、様変わりした作業や風習は多いのですが、仲多度郡財田町の香川用水記念公園では、毎年、農業用水の取水が増量される六月十一日に「香川用水水口祭」が催されています。讃岐平野全体を水田に見立てて、阿讚導水トンネルの出口を水口とする壮大な水口祭は、配水の安全と豊作を祈願した昔ながらの心を受け継いで定着し、県民になじみ深い風物詩的行事になりました。

香川用水は石鎚連峰に源を発する吉野川からの命の水。水への感謝を込めて県では会議用の飲み物に、ペットボトル入りの水「四国二郎吉野川源流」を使つています。白熱した意見の論じられた審議会の席で、水への感謝の心を新たにして、美味しい水をいただきました。

「お母さんと一緒に茶会のお手伝いをした時、新しい親子関係が生まれたかも?」。お母さんに勧められて始めたというお茶で、貴重な経験をしたという山本みどりさん。「何もかも新鮮ですよね。始める前は無駄な動作では?と思つていてることも、全て理由があるんですよね。」好奇心旺盛で、「何でもやつてみる」という彼女は今年就職した職場でも、何もかも新鮮で、興味津々だそうです。

◆七月月釜「朝茶」  
夏本番を迎えて、朝顔の咲くさわやかな早朝より始まる茶会です。月釜としては初めての試みを官翠会の皆様にお願い致しました。早起きは三文の徳ということです。皆様お誘い合わせてお出かけ下さいませ。



### お仕事のお手伝い

知識も技術も充電と放電が大切。「庭の土木工事も植栽もみんな私が指揮しました」とおっしゃる通り、趣味がこうじて思いつくりの庭が完成すると今度は人様の庭造りのお手伝いがしたくなるらしく、肥料や作業用品の販売やノウハウを提供する事業に発展したので、お気軽にご利用くださいと声をかけられました。野外結婚式のようなイベントの企画もしますと開放的なのですが、でも、ウチは狭いからと尻込みするト、「マンションのベランダでも小さな植木鉢でもガーデニングは楽しめますよ」と、実務的にやさしい提案と現実的な認識でした。

### 癒しの庭

「この空間が来園者の心を癒す庭になればと願っています」という小松さんと別れた帰り道、裸足で歩いた庭内の芝生の感触を思い出しながら、今度来る時は川のせせらぎを聞きながら読書したり、風に頬をなされながらお昼寝したいと思いました。

また、降る雨を眺めながらの熱い紅茶もいいなあとか、まぶしい陽を避けたアイスティーもいいだろうなどと思い、入園料は1,000円といいながら、今までで、レールサクレはすきなオーブン喫茶みたいと一人合点の帰り道もありました。

### ◆九月予告「箏と茶会」

#### —仲秋の雅びの宴—

筝

高畠美智子

フルート

吉岡 令子

オカリナ

茶会

無類井英水

とき

平成十四年九月二十二日(日)

処

美藻庵・晴松亭

詳細

は九月に御案内させていただきます。

席のご案内

第一席 六時 第二席 六時五十分  
第三席 七時四十分 第四席 八時三十分  
第五席 九時二十分 第六席 十時十分  
(所要時間 約一時間四十分)

とき

平成十四年七月二十日(土)海の日

処

当財団茶室 晴松亭

内容

官翠会 佐々木 博子

定員

二十五名 全六席

席料

三千五百円

# 茶 華道 ガイド

一茶庵久松会 **☎(087)885-2322**

6/9 第35回菖蒲茶会 席主：中村一鐘  
玉藻公園披雲閣 茶券1500円 9:00～15:00

裏千家淡交会高松支部 **☎(087)865-7150**

6/2 月釜 席主：安松宗玲 天神会館  
前売り500円 当日600円 9:00～16:00

7/7 月釜 席主：松野宗敏 天神会館  
前売り500円 当日600円 9:00～16:00

8/4 月釜 席主：宮脇宗香・田中宗富 天神会館  
前売り500円 当日600円 9:00～15:00

8/4 蓮茶会 席主：山本宗佳 栗林公園内

9/1 月釜 席主：松野宗美 天神会館  
前売り500円 当日600円 9:00～16:00

小原流高松支部 **☎(087)833-9274**

8/25 小原流いけばな体験講座  
高松市総合福祉会館6階 10:00～12:00 500円

表千家同門会香川県支部 **☎(087)874-0458**

6/1 屋島山麓からくふるさとの風2002>  
四国村 1200円 10:00～15:00

7/14 表千家流四季茶会 席主：土井宗美  
本覚寺別院 500円 9:00～16:00

(あいうえお順)

表千家流表風会 **☎(087)831-6412**

6/6 大井戸水神さん祭り添釜  
席主：無類井宗英 瓦町2丁目むる井茶華道教室  
500円 18:00～20:00

香川県観光振興課 **☎(087)832-3361**

6/9 栗林公園月釜 席主：石州流琴松会  
栗林公園掬月亭 710円(入園料別) 9:00～16:00

7/14 栗林公園月釜 席主：三癸亭賣茶流高松仙友会  
栗林公園掬月亭 710円(入園料別) 9:00～16:00

9/8 栗林公園月釜 席主：武者小路千家香川官休会  
栗林公園掬月亭 710円(入園料別) 9:00～16:00

琴平月釜茶道会 **☎(0877)75-4420**

6/9 松尾寺月釜 席主：田中宗武(裏千家)  
琴平松尾寺 500円 9:00～16:00

9/8 松尾寺月釜 席主：宮武宗隆  
琴平松尾寺 500円 9:00～16:00

坂出水道局 **☎(0877)46-4300**

6/9 花菖蒲茶会 席主：裏千家淡交会坂出分会  
かわつ花菖蒲園(川津浄水場内)  
300円 10:00～15:00

さぬき市商工観光課 **☎(087)894-1111**

6/9 第17回ショウブまつり茶会 席主：裏千家  
亀鶴公園花しょうぶの里 300円 9:00～15:00

三癸亭賣茶流高松仙友会 **☎(087)831-4649**

6/16 高松仙友会茶会 披雲閣 1100円 9:00～15:30

7/14 栗林公園月釜 掬月亭 710円 9:00～16:00

玉藻公園管理事務所 **☎(087)851-1521**

6/9 一茶庵久松会菖蒲茶会 披雲閣

6/16 三癸亭賣茶流高松仙友会茶会 披雲閣

町立塩江美術館 **☎(087)893-1800**

9/21 第6回八兵衛茶会 13:00～

東讃茶道懇話会 **☎(087)898-0391**

8/4 第40回池戸七夕茶会 茶筅供養

本席 官休庵、書院 裏千家 池戸西徳寺 7:30～

武者小路千家香川官休会 **☎(087)851-2258**

6/2 月釜 席主：佐々木博子 本覚寺 500円 9:00～15:00

7/7 月釜 席主：岡田裕子 本覚寺 500円 9:00～15:00

8/4 月釜 席主：多田よう子 本覚寺 500円 9:00～15:00

9/1 月釜 席主：藤本淳子 本覚寺 500円 9:00～15:00

9/8 栗林公園月釜 掬月亭 710円 9:00～16:00

武者小路千家官休庵 佐々木博子社中 **☎(087)821-8777**

7/7 第10回学生金 席主：学生部長 森山史子

中條文化振興財団晴松亭 500円 9:00～16:00

7/20 中條文化振興財団月釜(朝茶)

3,500円 6:00～各席要予約

次の期間(9月1日から11月末日)の情報を8月10日までにお知らせ下さい。

上記予定は変更する場合もあります。

中條文化振興財団助成事業

## 茶の湯の文化講座

### 「桃山時代の道具と現代」

～名品を手にとって楽しむ鑑賞会～

主催：茶の湯をさらに楽しむ会  
申し込み先 [**☎826-3355**]

- 講師 谷松屋 一玄菴 戸田 博 氏
- とき 平成14年6月30日(日)要予約  
①13:30より(講演後呈茶) ②15:00(講演前呈茶)
- 処 晴松亭(中條文化振興財団茶室)
- 呈茶 武者小路千家 萬松会
- 会費 2,000円

# イベントガイド

多度津町民会館 **☎(0877)33-3330**

8/2 陸上自衛隊第二混成団音楽隊演奏会 ■  
8/16 劇団四季 「王子とこじけ」 18:30～●

ACTことひら(水曜日休館) **☎(0877)73-2655**

5/25～6/3 琴平RCひるあんどんクラブ・五弁の会・  
金刀比羅宮写友会・「写真展」 9:00～■

6/10～30 企画展 岡本武紫 個展「抽象画」45点 9:00～■

灸まん美術館 **☎(0877) 75-3000**

5/31～6/4 須上 叶 油彩展 9:00～■

6/7～11 勝賀瀬 寛 窯出し展 9:00～■

6/14～18 チャーチル会 高松展 9:00～■

6/21～25 第4回 貞廣裕子 遊ぼうよ展 9:00～■

6/28～7/2 森下 清香 木彫展 9:00～■

7/5～9 三好厚男 作陶展 9:00～■

7/12～23 海南町 清流海部川 三好和義写真展 9:00～■

7/26～30 久保田礪平・露水 鉄・陶展 9:00～■

8/2～6 長谷川冴子 アートフラー展 9:00～■

8/9～20 CREATION WAVE'02 国工同好会グループ展 9:00～■

8/23～27 「いいお顔」写真展 9:00～■

8/30～9/2 荒木 愛信 陶片朴展 9:00～■

観音寺市民会館 **☎(0875)23-3939**

<大ホール>

7/28 劇団飛行船公演

8/1・2 第50回全日本吹奏楽コンクール香川県大会

8/10・11 香川ジュニア音楽コンクール観音寺大会

町立塩江美術館 **☎(087)893-1800**

\*企画展

6/4～16 第8回ほたるの里フトコンテスト作品展 9:00～●

7/30～9/1 国際子ども秀作絵画展 9:00～●

9/3～29 川島 猛展(仮称) 9:00～●

\*行事

6/8 ほたるの里ミュージアムコンサート 13:00～●

ストーンミュージアム 石の店山田 **☎(087)871-2200**

5/1～6/30 第12回石の彫刻展 9:00～●

牟礼町文化協会 **☎(087)845-4111**

6/15～23 水無月展(日本画・押し絵) 石の民俗資料館 10:00～■

7/6～14 文月展(書道・ちぎり絵) 石の民俗資料館 10:00～■

画廊 長町 **☎(0879)42-3626**

6/1～20 絵画 彩る展 10:00～■

6/23～30 津田町文化講座(絵画・陶芸) 作品展 10:00～■

7/7～14 第11回絵画サン展 10:00～■

白鳥町教育委員会生涯学習課 **☎(0879)26-1121**

9/1 野外コンサート 白鳥中央公園野外ステージ 15:00～■

とらまる座(大内人形劇場) **☎(0879)25-0400**

6/1 童心座人形劇「さるじぞう」ほか 13:30～●

6/2 童心座人形劇「さるじぞう」ほか 10:30・13:30～●

6/22 人形劇団あぼ「宇宙人の落とし物」ほか 13:30～●

6/23 人形劇団あぼ「宇宙人の落とし物」ほか 10:30・13:30～●

7/20 人形劇団パン「トン吉くんとはりきりおばけ」ほか 13:30～●

7/21 人形劇団パン「トン吉くんとはりきりおばけ」ほか 10:30～・13:30～●

7/27・28 香川人形劇協議会「夏休み人形劇祭」13:30～●

8/10～14 人形劇団ののはな「おおきくなれ」他 13:30～●

●は有料、■は無料、▲は参加料、★は整理券が必要です。(記号表示は判明したもののみ)

上記予定は変更する場合もあります。

# イベントガイド

香川県庁ギャラリー(総務部総務学事課) ☎ (087)832-3075

6/17~19 第14回さぬき建具祭 8:30~ ■  
香川県文化会館 ☎ (087) 831-1806

5/25~6/9 香川県美術展覧会 (前期:洋画、彫刻、工芸)  
1・2・3階展示室 9:00~●  
6/15~30 香川県美術展覧会 (後期:日本画・書・写真)  
1・2・3階展示室 9:00~●  
7/20~9/1 特別展 ニューヨーク・熱きまなざし 川島 猛展  
1・2・3階展示室 9:00~●  
9/5~16 第41回 日本現代工芸美術展  
1・2・3階展示室 9:00~●

香川県県民ホール ☎ (087)823-3131

<グランドホール>  
6/9 東京佼成ウインドオーケストラ高松公演 14:00~●  
6/16 創立50周年記念高松交響楽団  
第93回定期演奏会 14:00~●  
7/21 松竹大歌舞伎 12:30~・16:30~●  
<アクトホール>  
6/8 高松混声合唱団第25回定期演奏会 18:30~●  
6/21 オカリナコンサート・風と緑のハーモニー 18:45~■  
6/22 第11回トリム・フェスティバル香川 13:20~■  
6/30 片山雅史佑と邦楽アンサンブル煌  
第7回定期演奏会 13:30~●  
8/24 第6回能楽鑑賞講座  
「離子と謡の魅力」 14:00~★  
9/1 かがわジュニア・ニューフィルハーモニック・  
オーケストラ ファーストコンサート 14:00~●

香川県歴史博物館 ☎ (087)822-0247

<企画展示室> (大人500円)  
7/13~9/1 知識の森へ行こう! 9:30~●  
<部門展示室> (大人400円)  
4/9~6/30 地下水を生かす(2) 水とくらし室 9:30~●  
5/25~6/30 新収蔵資料展 宗教文化室 9:30~●  
6/5~7/21 大名と和歌 松平家歴史資料室 9:30~●  
7/2~9/15 空から見た香川2 水とくらし室 9:30~●  
7/24~9/15 松平家と寺社 松平家歴史資料室 9:30~●

香川県観光振興課 ☎ (087)832-3360

6/9 6月庭園コンサート(中国琵琶演奏)  
栗林公園 9:00~9:30●  
7/12 7月庭園コンサート(ジャズ・オーケストラ他)  
栗林公園 18:00~18:30●

香川県教育会館 ☎ (087)833-0013

<ミューズホール>  
6/2 劇団786「桂こけし一座」公演  
13:00~・17:00~●  
高松市教育委員会文化振興課 ☎ (087)839-2636  
6/22 デリバリーアーツ事業「南米ボリビア音楽」  
直島町総合福祉センター■  
6/23 デリバリーアーツ事業「南米ボリビア音楽」  
つくし幼稚園■  
6/25 知つもらおう高松講座「讃岐の冠婚葬祭」  
築地公民館2階中ホール 13:00~14:30■  
7/19 デリバリーアーツ事業  
「李麗仙による“源氏物語”朗読」  
高松市美術館 14:00~■  
牟礼町 石の民俗資料館 19:00~■  
8/19~23 高松市内の埋蔵文化財展  
高松市役所1階市民ホール 8:30~17:00■

高松市美術館(休館日:月曜) ☎ (087)823-1730

4/26~6/2 フランス・カンペール美術館所蔵  
ブルターニュの海と空展 2階展示室 9:30~●  
6/14~30 ポップの時代展 2階展示室 9:30~●  
8/2~9/1 韓国大衆文化展 2階展示室 9:30~●  
9/20~10/20 フェリシアン・ロップス展 2階展示室 9:30~●  
9/7 二胡と中国琵琶による悠久の調べ 18:30~●

高松市観光課 ☎ (087)839-2416

8/12~14 第37回 さぬき高松まつり  
中央公園ほか 夕方~■

菊池寛記念館 ☎ (087) 861-4502

6/1~7/14 菊池寛記念館第11回文学展  
「菊池寛と芥川龍之介」 9:00~●

6/23 文学展記念講演会「新思潮」の青春  
視聴覚ホール 14:00~■  
<文芸講座>

6/8 文芸講座「芥川龍之介と菊池寛」  
3階第一集会室 13:30~■

7/6 文芸講座「現代短歌の楽しさ」  
3階第一集会室 13:30~■

8/3 文芸講座「同人雑誌の文字」  
3階第一集会室 13:30~■

高松市歴史資料館(休館日:月曜) ☎ (087) 861-4520

8/3~9/16 第30回特別展  
「映画・映像の文化展(仮称)」 9:00~●

高松市立市民会館 ☎ (087)839-2888

<大ホール>  
7/8 TAO「LIVE2002~この空につつまれて~」  
19:00~●

7/13 香川二期会合唱団  
第35回定期演奏会 18:30~●

7/20 フラウエンコール・かがわ  
第22回定期演奏会 18:30~●

瀬戸内海歴史民俗資料館 ☎ (087)881-4707

<土曜講座>

6/22 第一回「たかが棒されど棒-天秤棒の魅力」■

7/27 第二回「考古学から見た瀬戸内海-古代藻塩づくり」■

8/24 第三回「近県の民俗芸能見揚・お神樂・太鼓踊りなど」■

香川興産㈱オリーブホール ☎ (087)861-0467

7/7 香川大学劇団EMPTY公演

高松天満屋 ☎ (087)812-7750

<5階美術画廊>

5/28~6/3 虫明焼 黒井千左展 10:00~■

6/4~10 溥月 明 水墨画展 10:00~■

6/11~17 ヨーロッパアンティーク展 10:00~■

6/18~24 末永敏明 日本画展 10:00~■

6/25~7/1 葉山有樹 作陶展 10:00~■

三越高松店 ☎ (087)825-0828

<本館5階美術画廊>

5/28~6/3 来日記念 ツーリ・リー油絵展

6/4~10 日本の雅 市松人形展

6/11~17 三越美術特選会 絵画特集

6/18~24 三越美術特選会 工芸特集

6/25~7/1 掛け軸大表装展

アコスタージュ ☎ (087)841-8200

9/18~30 上前智有個展 具体美術 15:00~■

ギャラリーen ☎ (087)851-3711

7/1~7 赤木明登 ~楽しい食卓によせて~

「ぬりもの展」 10:00~■

四季ギャラリー(7:30~19:00) ☎ (087)822-9010

7/1~31 もう一つのスイス・絵と写真展 ■

8/1~15 ひょうけ祭写真展 ■

高松テルサ ☎ (087) 844-3511

6/14 「やすらぎコンサート」心の靈場めぐり 18:30~●

6/15 ヴァイオリン・ピアノ・コンサート 13:00~■

6/22 アナ斯塔シア・チボタリヨーワ

ウラジミール・オブチニコフ ジョイントリサイタル

14:00~●

6/23 ガラ・コンサート オブ・ちえちいりあ 13:00~■

宮武画廊

☎ (087)851-2354

6/3~9 第17回竹堂木彫同好会展

「讃岐彫とのふれあい」 ■

6/10~16 讃岐版の会 版画5人展

6/17~23 岡田信也 水彩画展

6/24~30 谷口裕志 作陶展

7/1~7 辻一摩 個展(仮称)

7/8~13 2003 新作カレンダー展

7/15~21 タダメ写真部 写真展

7/22~28 四国の自然パート4 写真展 岩崎正朔

7/29~8/4 香川県立盲学校 幼児・児童・生徒作品展6

8/5~11 佐竹健児 作品展(仮)

8/12~18 尾藤正樹の物語展

8/19~25 「自然とのたわむれ」 大西賢治写真展

8/26~9/1 北山守文石人形展

ヨンデンフラザ高松 ☎ (087)851-3863

6/11~16 県内各地から集まった愛好家30人による、

竹細工の展示

6/18~23 第8回研陶醉会作品展

6/25~30 高松美芸クラブ作品展

香川県自然科学館 ☎ (0877)42-0034

7/21 親子自然体験教室(野外観察と工作)

9:00~12:15 ■

…往復はがきによる応募7/10まで

坂出市民ホール ☎ (0877) 45-1505

8/18 香川県吟剣詩舞選手権大会 8:00~

あーとらんど ギャラリー ☎ (0877)24-0927

\*絵画コーナー(1階)

5/25~6/16 筆塚 稔尚 版画展 9:30~■

7/20~8/11 様々な邂逅展 9:30~■

\*工芸コーナー(2階)

6/6~20 大桐 大 作陶展 9:30~■

6/23~7/17 浅原千代治 吹きガラスグループ展 9:30~■

7/20~8/11 素晴らしい出会い展 9:30~■

丸亀市文化協会 ☎ (0877)24-8822

8/25 第11回名作映画まつり

丸亀市生涯学習センター 9:00~■

丸亀市教育委員会文化課 ☎ (0877)24-8822

7/13~21 第67回香川県美術展覧会受賞作品展

丸亀市立資料館 9:30~■

8/10 佐竹由美ソプラノリサイタル

猪熊弦一郎現代美術館 18:00~

丸亀市立資料館(月曜休館) ☎ (0877)22-5366

5/16~6/23 刀の美 兜の美 9:30~●

7/30~9/1 昔なつかしい学校展 9:30~■

丸亀市猪熊弦一郎現代美術館 ☎ (0877) 24-7755

6/9~7/21 「ミローマヨルカ島の光の中で」

展示室C 10:00~●

7/28~9/23 「オシャベリ@美術館」 展示室C 10:00~●

丸亀市民会館 ☎ (0877) 23-4141

<大ホール>

7/8~10 太鼓鑑賞教室「JDO一路」 10:30~・13:30~●

8/3 小原孝ピアノリサイタル 14:00~●

9/8 丸亀少年少女合唱団

~結成記念コンサート~ 14:00~●

9/16 松竹大歌舞伎「十代目坂東三津五郎襲名披露」

12:00~・16:30~●

丸亀市中央公民館 ☎ (0877)24-1392

<一般教養講座>

7/4 「人生五十からの出發」

郷土史家 宮武 進 13:30~■

# 晴友会通信 京を楽しむ II

当日々晴友会の催しとしては珍しく天気がグズついて少し肌寒い中での京都駅集合となりました。早速、各々タクシーに分乗して頂き東山の銀閣寺そばにある「三友居」別館まで移動。今回は参加の申し込みが当初予定の倍近くとなつたため、お茶席と点心席の二席を交替してお楽しみ頂きました。

「塵外室」は昭和の初期に建てられ、建物の北側に南向きの斜面を持つ山裾に

4月の京都。財団友の会の懇親会としてアンコールの要望が高かった「三友居」別館「塵外室」で点心とお茶を頂くという企画の第2弾が去る4月16日に実施されました。今回は南禅寺の近くにあります野村邸「碧雲荘」と野村美術館の見学も併せて実現する事が出来ました。企画の実現に向けてご協力頂きました。皆様には心より感謝を申し上げます。

待月軒前にて



さて、春の香りいっぱいの美味しい懐石は、やはり春の緑が美しく散りばめられた一寸豆粥で終わります。さて、春の香りいっぱいの美味しい懐石は、やはり春の緑が美しく散りばめられた一寸豆粥で終わります。

北泉居、花泛亭、又織等点在する茶室をめぐり、碧雲荘に行き着くと、得庵翁が舞った能楽堂があります。現在では望むべくもない材や技術をふんだんに使ったこの建物には思わずため息が出てしまいました。明治・大正時代に君臨した財閥の数寄者達の茶会というのはなかなか想像できませんでしたが、舞台のスケールを目の当たりにしてもやはりシュミレーションは難しそうに思いました。さて、逆に回つて来

たので別邸の正門を最後に出ると、野村美術館があり、春季特別展「珠光から利休へ」前期と題した展示を行なっていました。明治に入り、海外に流出しかけたこれらの茶道具を散逸させぬよう、収集した得庵翁の先見に脱帽しながら拝見致しました。参加の皆様はここで自由解散し楽しい一日を終わりました。

本誌や財団の行う各種行事などで馴染みの深い妹尾共子さんが、さきごろ地元新聞に二年余りに亘って毎土曜日、執筆連載されていた「客||まろうど||たち」が、出版された。

連載中からこの歴史エッセイ、新しい発見もあり、何よりも切り口の新鮮さに感銘を受けた人も多かったという。

その物語りの中で、主人公となつた人々、モノたち、時代の移り変わりに従つて運命的な転変を辿ることには、ある種の哀歎を覚えた。

その頃、NHK教育テレビ国宝探訪で、国宝に指定されている三つの茶室のひとつである「如庵」の放映を見た。この茶室もまた、人の運命と同様数奇な道を辿った。しかし、そうした時代の移り変わりにもめげず、凛として今日もその姿を伝えている。

それは、なにに基因するのだろうか。時代を超える、何かがここには、あるのだろう。

## ◆プレゼントのお知らせ



「客たち」を十名の方に贈呈させて頂きます。ご希望の方は

六月末日までにハガキにてお知らせ下さい。発表は発送をもつて替えさせて頂きます。

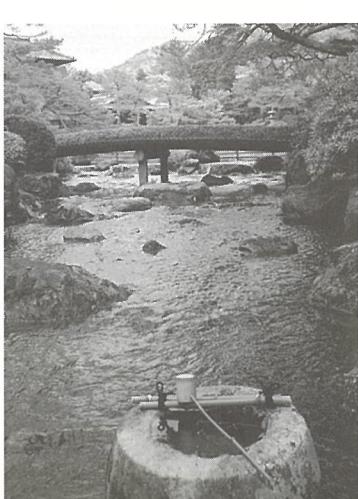
## 編集後記

あります。別館の一階からは、大文字「大」の焼き場がはつきりとわかる程近くに見えます。口の向切で二畳の水屋が付いています。床は升床で貴入ロと躰ロがあり、長くのびた軒は美しいこけら葺き仕上げになつています。疎水から水を引く池は茶室より一段低い位置にあり緑の深い立体的な庭になっています。この日は春雨の中とあつ

香物と共に今では珍しくなつたヒガイの山椒煮を頂く頃には雨も上がりました。

午後は、いよいよ野村得庵翁の「碧雲荘」です。散歩がてらに歩く人、近頃名物の人力車を頼む人と、思い切って移動して頂き野村別邸の西門に集まつた一行

は、野村家の執事保田氏の案内で普段は非公開の門をくぐります。この西門の前庭だけでも十分な広さをもつ別邸の総面積は約六千坪。美しくりっぱな赤松を随所に配した庭は、近くは南禅寺の山を、遠くに東山を借景にした雄大なスケールの庭です。中央にある大きな池は琵琶湖の疎水から水を引き入れ、また戻しているとのことで、恐ろしく攻撃的な白鳥がこの池の主として君臨しています。



声・情報お寄せください

〒760-0017 高松市番町二丁目一一一二

(財)中條文化振興財団編集部

TEL(087)826-3355  
FAX(087)826-2212